



同級生 交歓

東京都杉並区 浜田山小学校にて（撮影・深野未季）

（右から）元日本銀行理事

山本謙三

シンガー・ライター

大貫妙子

コナシ商事常勤監査役

野村明弘

小四から三年間を同じクラスで過ごした私たちは、一九六六年に浜田山小学校を卒業した。六四年の東京五輪では、学校から甲州街道までマラソンの応援に出かけた。三人が所属していた合奏部では、区の合同演奏会に杉並公会堂まで出向いた。子どもなりに忙しい日々を、精一杯生きていたように思う。

大貫さんの音楽の感性は、当時から図抜けていた。しかし、ひけらかすことなく、穏やかな笑顔を絶やさない少女だった。十代後半に、のちに日本シティポップ界の草分けと呼ばれる「シュガー・ベイブ」の結成に加わり、山下達郎氏とともにボーカルを務める。解散後ソロ活動に移り「都会」や「色彩都市」、「メトロポリタン美術館」などの名曲を次々にリリース。今も毎年恒

例のコンサートは、ディープなファンで満員だ。映画「東京日和」で日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞したり、エッセイ集を出したりと、活躍は多岐にわたる。最近海外のJポップ熱の高まりもあってますます多忙な日々を送っている。

野村君は、桜満開のこの校庭で迎えた入学式を今も覚えているという。少年時代からの愛嬌のある人なつこい性格と、日本長期信用銀行で培った投資銀行業務の知識と経験をもとに、政府系機関を経て、現在も民間企業で活躍が続いている。

山本は、クラスのお楽しみ会では、毎回独唱を買って出ていた。大貫さんを差し置いて！同級生にしてみれば、じつに残念なことをしたものだ。長く勤めた日本銀行では、金融政策を決定する会合の運営や、リーマンショック、東日本大震災への対応に当たった。今は講演や執筆に従事する。

数年前、久方ぶりに再会を果たした私たち。大貫さんにはあの澄んだ歌声をいつまでも聴かせてもらい、温かな気持ちで明日を迎えたい。いちファンとして心から願っている。

（山本）